

令和4年度 奨励教育報告書

【申請学部・学科・担当者】

札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科 神林 裕子・深浦 尚子・野崎 剛毅

【研究テーマ】

英語絵本の読み聞かせを中心とした学生と園児との交流について
～ニセコ町幼児センターでの実践を通じて～

【協定・連携先】

ニセコ町 （協定 有）

【目的】

本研究は2年目の継続研究となる。当学科の保育英語コースの学生が、ニセコ町幼児センターの園児に対して、英語絵本の読み聞かせやそれに関連した手遊び等の実践を行うことを通して、英語絵本を幼児教育に取り入れる指標の1つを示したり、学生の読み聞かせ等の実践力を高めたりすることを目的としている。ニセコ町幼児センターは外国とつながりのある児童が多く在籍し、英語に慣れ親しむ活動を実施している。札幌ではそのような環境下にある園での学生の実習は難しいため、今回の交流を通して、園児の実態に応じた学生の実践力を高めることを目指していく。

【実施計画等】

昨年度はオンラインの模擬授業のみの実践であったが、今年度はニセコ幼児センターの子どもたちに向けて実習が可能となった。

実施計画

- ・ニセコ幼児センターとの打ち合わせ
- ・教員に向けての研究の趣旨説明
- ・英語絵本の選定に係る保育者（ニセコ町幼児センター）からの希望調査
- ・希望調査をもとに英語絵本の選定と購入
- ・ニセコ幼児センターへの英語絵本の閲覧開始とアンケート依頼
- ・英語絵本のアンケート実施（約1か月間）
- ・回収と分析
- ・選定された英語絵本をもとにそれに関連した手遊び等の指導案作成
- ・選定された絵本の上位5冊のうち2冊（2クラス分）について指導案を作成
- ・模擬保育
- ・実習の実施
- ・振り返り・計画案の再構成

【実習の概要】

日 時：9月13日（火）

場 所：ニセコ幼児センター

対 象：園児2クラス（年長・年中）

実習を実施した学生：幼児教育保育学科 保育英語コース 7名

（2グループに分かれて実習）

実習を実施した時間：それぞれのクラスにおいて約20分間

（自分の担当していないクラスは観察実習とする）

使用した英語絵本：年長クラス **The Very Hungry Caterpillar**（はらぺこあおむし）

関連した英語遊び “What’s this?” クイズ

Seven Steps

年中クラス **The Goldfish Got Away**（きんぎょがにげた）

関連した英語遊び **Missing Game**



英語絵本の読み聞かせ



英語絵本に関連した英語遊び

実習後の振り返り：観察をしていただいた教員の方からの助言等

【実習を終えた学生から】

- ・年中や年長の2つクラスとも、英語が子どもたちからたくさん出てきていました。日頃から英語を使うということが自然にできる環境にあることがわかりました。短い時間ではあったけれども、みんな元気に読み聞かせや英語遊びに参加をしてくれてとてもうれしかったです。
- ・幼稚園実習が延期になった人や、体調が悪く参加できない人もいて役割分担をもう一度かんがえなければいけなく大変でしたが、バスの中で打ち合わせを一生懸命にして何とか実習を終えることができました。園の中も見学することができて、いろいろなところに英語の表示があることもとてもよいことだと感じました。
- ・ミッシングゲームでは、隠す絵を少なくした方がよいかと最初は思いましたが、思った以上に隠したものをたくさん子どもたちはあてることができ驚きました。また、たくさん子どもたちが「はい！はい！」と手をあげてくれて、どの子にあてるのかまよってしまうほどでした。
- ・活動が思った以上に速く進んでしまい、**Seven Steps**では、速さを変えて歌ったり、手拍子を入れて歌ったりするなどのバリエーションをその場で考えて増やしましたが、とても焦ってしまいましたが、子どもたちが活動に飽きることなく英語遊びを楽しんでくれてよかったです。

【まとめ】

ニセコ幼児センターの25人の教員の方から「ニセコ幼児センターの子どもたち(4・5歳を対象)に適した英語絵本」のアンケートを実施した。予め希望された英語絵本や『子ども英語ブッククラブ』の英語絵本を参考にして英語絵本の実際に手に取ってアンケートを行い、絵本の選定をしてももらった。選定の理由としては、松本(2017)の英語絵本選定の10の観点「①絵本の長さが適切であること」「②英語が平易であること」「③英語に特徴的な音声やリズムがあること」「④絵本作品として優れていること」「⑤遊びの要素があること」「⑥他の行事等との融合をしやすいこと」「⑦子どもが参加しやすいこと」「⑧物語構造が繰り返し構造であること・物語構造が起承転結(あるいは行きて帰りし物語)であること」「⑨テーマがあること」「⑩主人公、登場人物の設定が魅力的であること」に加え、予備調査の段階で「日本語でよく慣れ親しんでいる本であること」の観点も必要であることがわかり計11の観点から選定の理由を伺った。

選定された上位の絵本を分析すると、学生が模擬保育に反映できる観点は「⑤遊びの要素があること」「⑦子どもが参加しやすいこと」であった。学生は絵本に出てくる動物や身の回りのものを使って、ゲームをしたり絵本の読み聞かせの中で簡単なクイズを出したりしながら、英語絵本からの広がる多様な活動を考え、模擬保育を経て実習に臨むことができた。

模擬保育では、計画案を作成する段階から、歌や関連する動画などを検索したり、すぐ共有したりすることができ、iPadを有効に活用することができた。また、教材作成や模擬保育の動画を振り返りにも使用した。さらに今回の実習では、欠席者が出たことから、模擬保育の動画を振り返り、欠席者の役割を動画で確認することもできた。